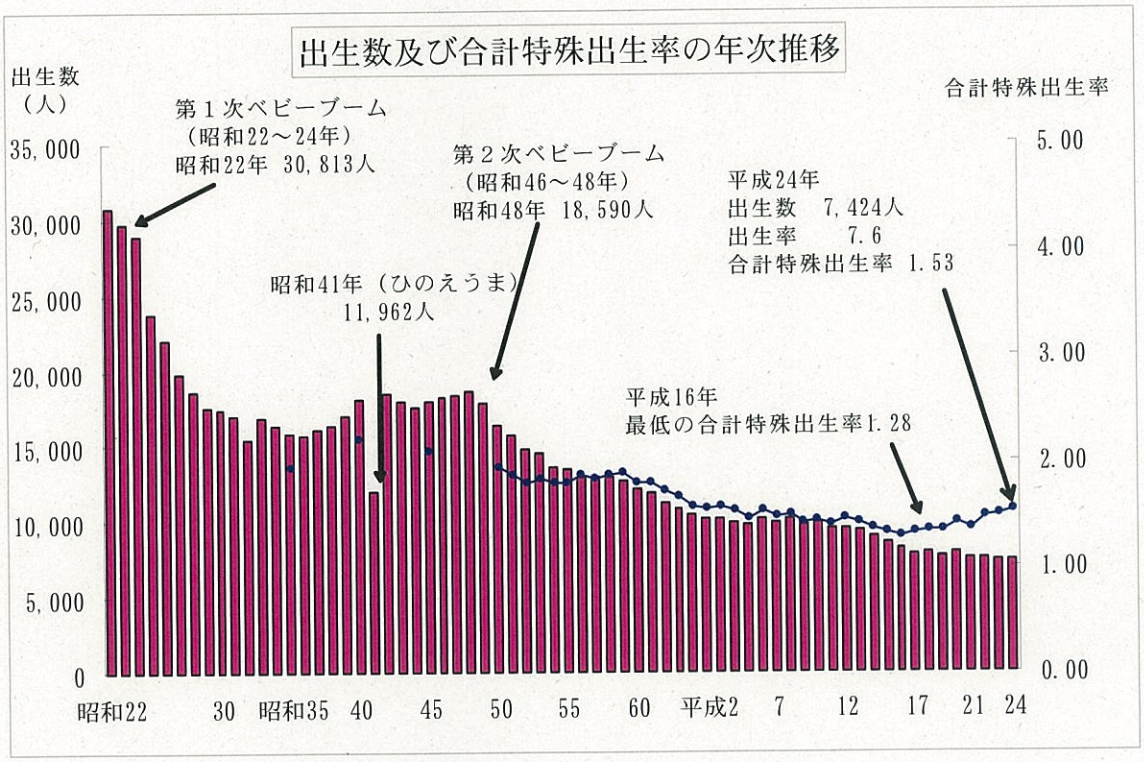
Ⅲ．結果の概要

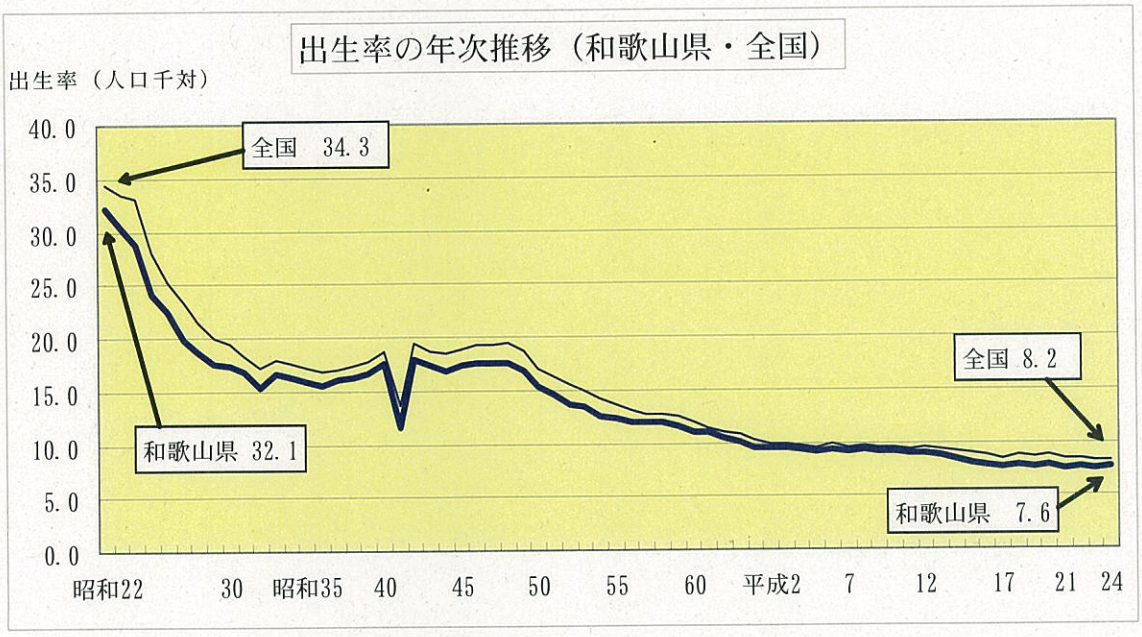
1　出生

平成24年の出生数は7,424人で、前年の7,460人よりも36人減少した。

出生率（人口千対）は7.6で前年の7.5を上回った。また、合計特殊出生率は1.53で、前年の1.49を上回った。

昭和50年以降、出生数は減少を続け、平成に入ってからは、増加と減少を繰り返しながら減少傾向にある。





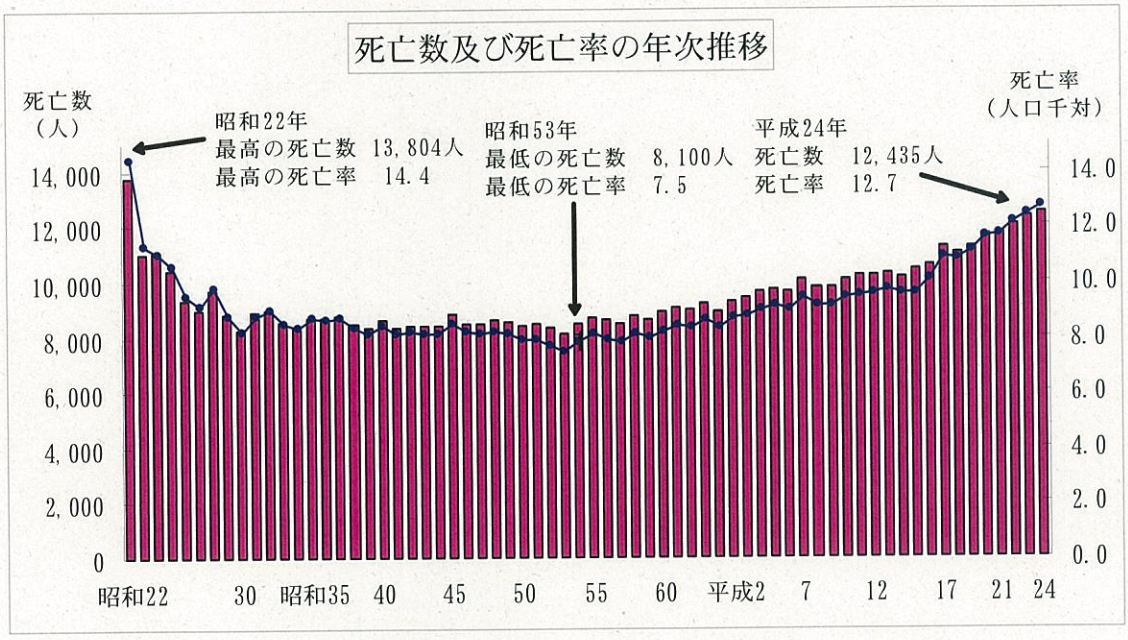
2　死亡

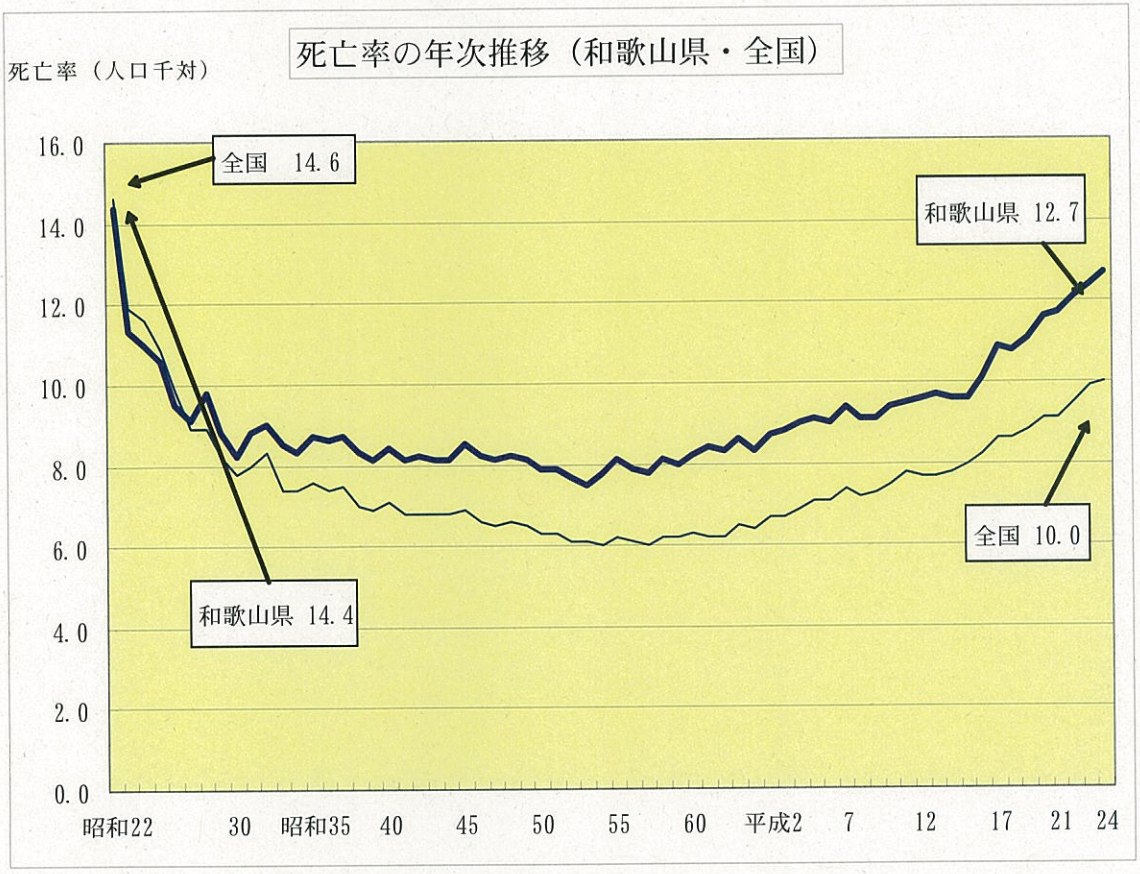
（１）総死亡

平成24年の死亡数は12,435人で、前年の12,310人より125人増加した。

死亡率（人口千対）は12.7で、前年の12.4を上回った。

昭和26年以降は8,000人前後で推移していたが、平成７年及び平成10年以降は１万人以上となり上昇傾向にある。





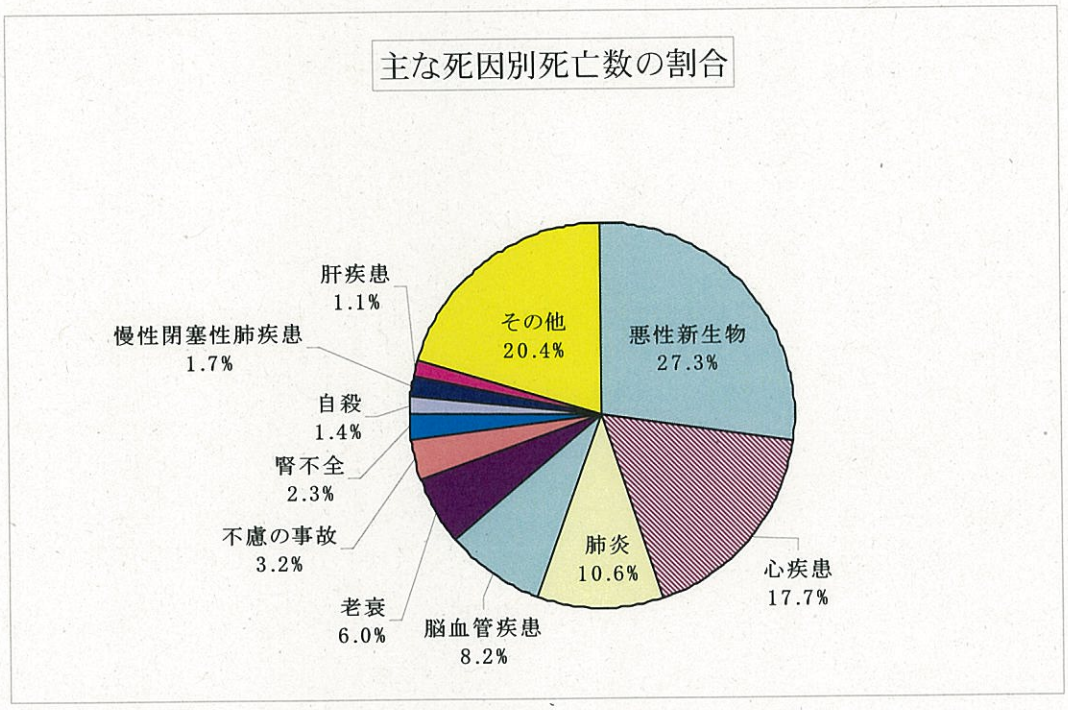
（２）死因別死亡

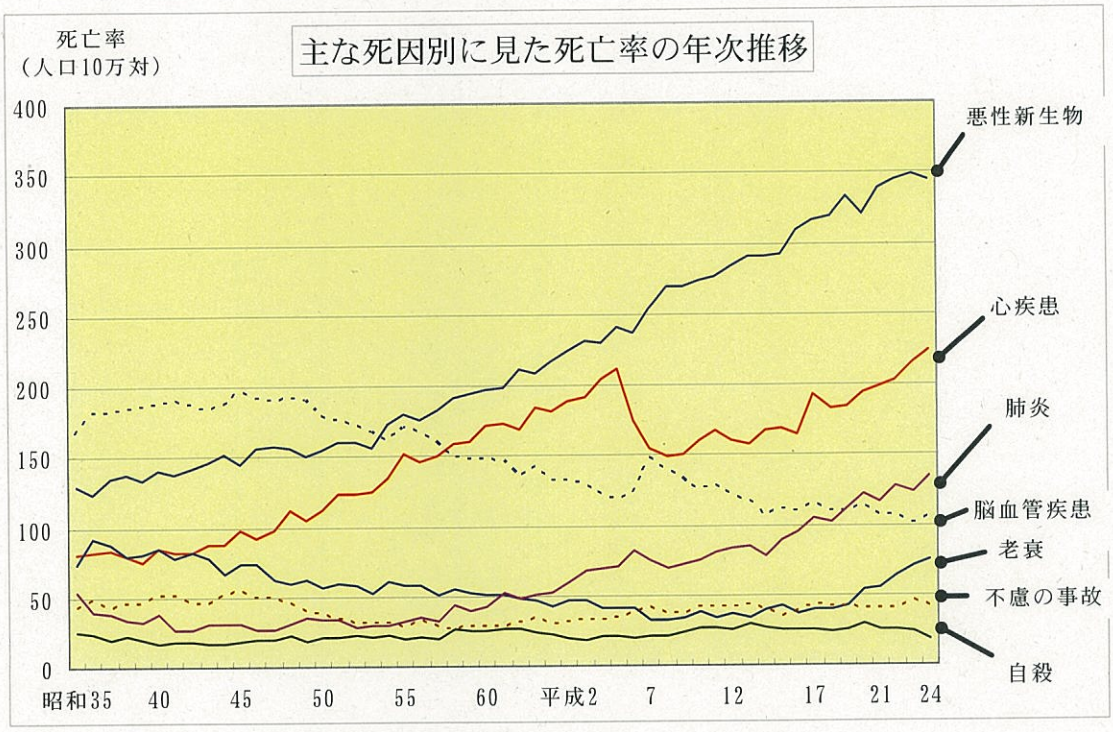
死因別に見ると、死因順位の第１位は悪性新生物、第２位は心疾患、第３位は肺炎であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ27.3％、17.7％、10.6％となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は、昭和54年以降から第１位で上昇を続けているが、平成24年の人口10万人当たり死亡率は345.3で前年より3.9ポイント下がった。

心疾患は昭和58年に脳血管疾患に変わって第２位となり、増減はあるものの死亡数・死亡率とも上昇傾向にある。

肺炎は平成18年まで第４位であったが、平成19年からは脳血管疾患にかわって第３位となり、増減はあるものの上昇傾向にある。



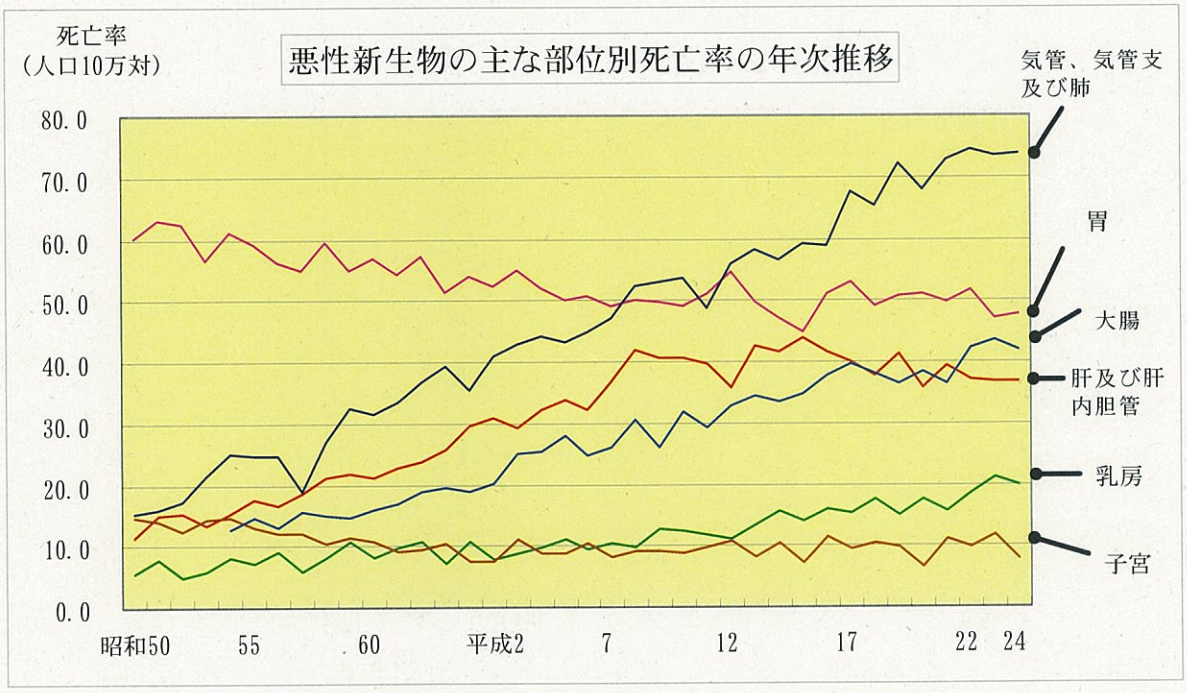


（３）部位別に見た悪性新生物

悪性新生物での死亡数は3,394人であり、前年の3,457人よりも63人減少した。

死亡率を部位別に見ると、１位「気管、気管支及び肺」２位「胃」３位「大腸」となっている。

「気管、気管支及び肺」は、平成８年にはじめて「胃」を上回り、平成11年を除き１位となっている。

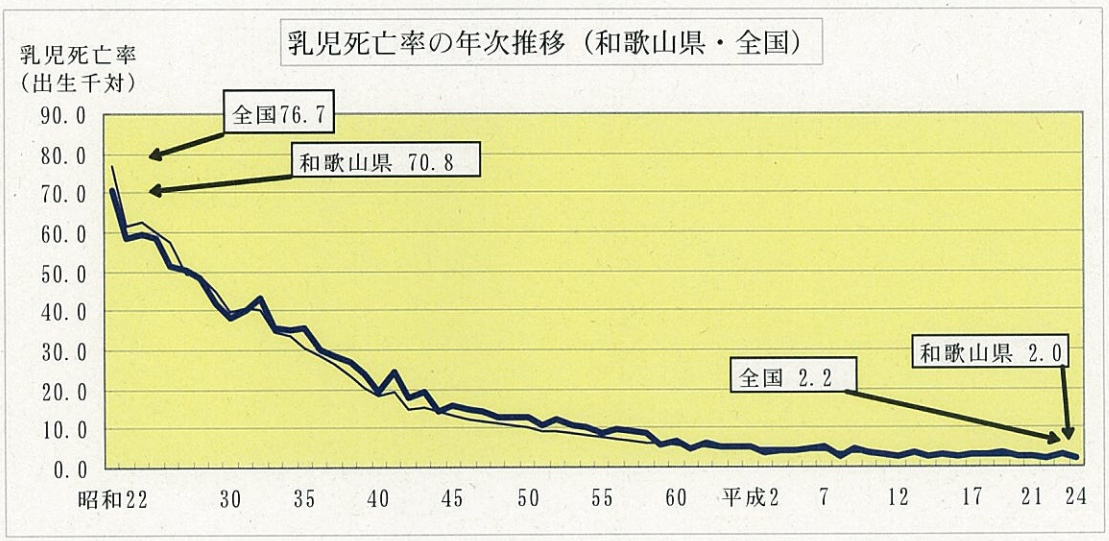


注）①「大腸」は昭和54年からの分類である

②「乳房」「子宮」は女性10万人対の死亡率である

（４）乳児死亡、新生児死亡

平成24年の乳児死亡数は15人で、前年の23人より8人減少した。
乳児死亡率（出生千対）は2.0で、前年の3.1を下回った。
また、平成24年の新生児死亡数は9人で、前年の15人より6人減少した。
新生児死亡率（出生千対）は1.2で、前年の2.0を下回った。



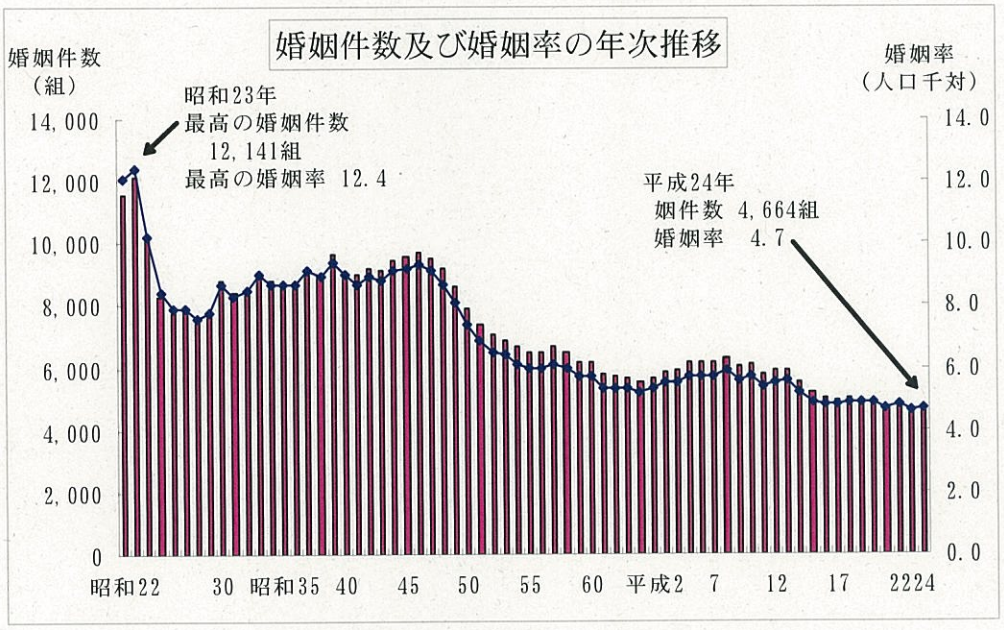
3　婚姻

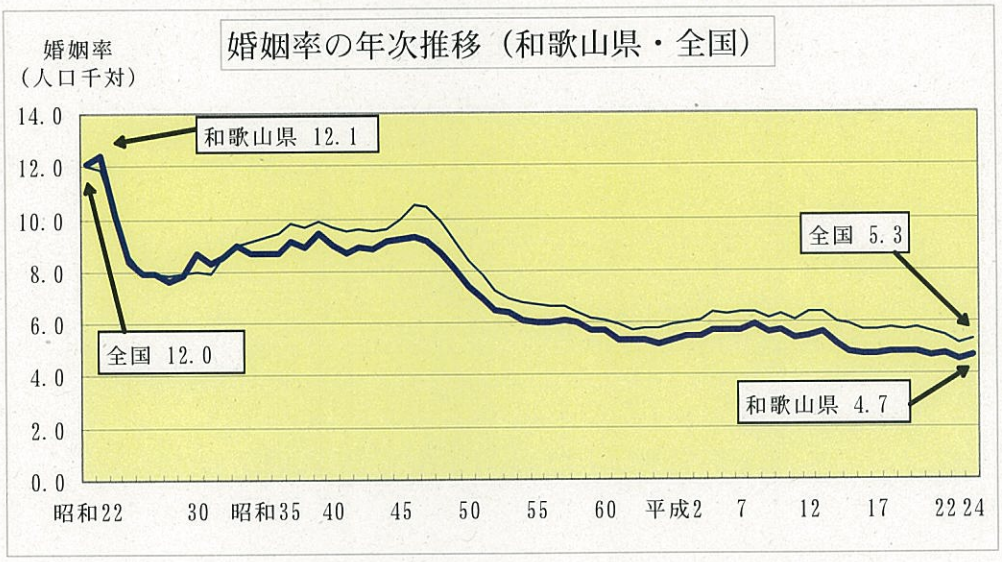
平成24年の婚姻件数は4,664組で、前年の4,601組より63組増加した。

婚姻率（人口千対）は4.7で、前年の4.6を上回った。

昭和23年以降、婚姻件数は急激に減少し、昭和30年から40年代前半には9,000組前後で推移していたが、昭和46年以降は再び減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返していたが、平成14年からは連続で減少し、平成18年は5年ぶりに増加した。しかし、その後は減少し、平成20年以降は、増加と減少を繰り返している。

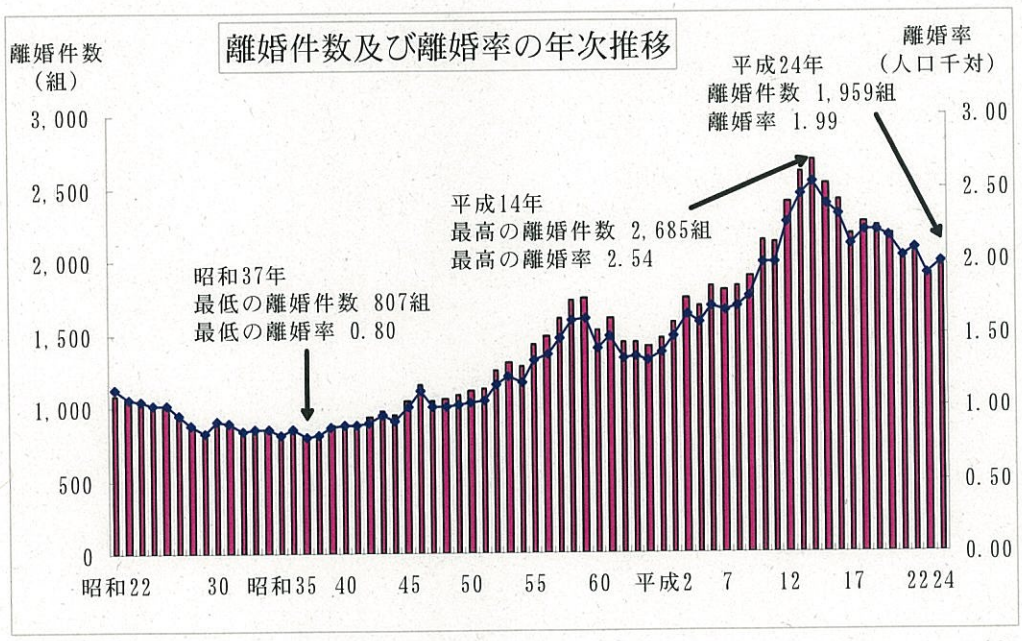
平成24年の平均初婚年齢は、夫30.0歳、妻28.6歳となり、前年と比べて夫は0.1歳、妻は0.2歳上昇している。

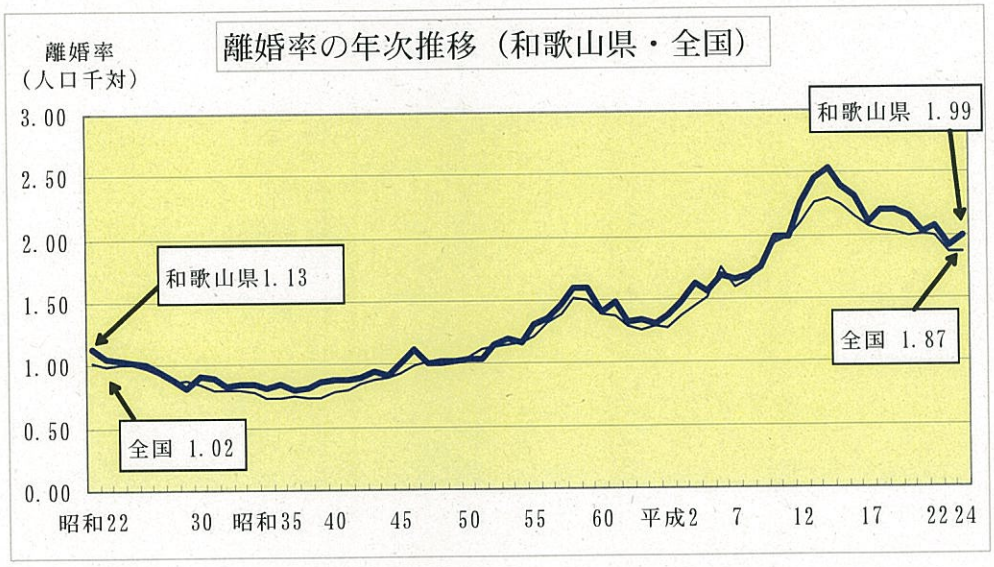




4　離婚

平成24年の離婚件数は1,959組で、前年の1,890組より69組増加した。
離婚率（人口千対）は1.99で前年の1.91を上回った。
昭和37年以降、離婚件数は緩やかな増加を続け、昭和59年から減少するが、平成元年以降は急激に増加。平成14年をピークに減少傾向に転じている。





Ⅳ　統　計　表